

第395号 (令和4年6月1日(水)発行)

発行所

京都女子大学 宗教部

京都市東山区今熊野北日吉町35

電話 075 (531) 7074

華利陀茶



落ち

仏教学非常勤講師 清基 秀紀

卒業の歌

藪内流のお家元で茶道を学んでいた関係で、大学の茶道部の指導をすることになり、もうずいぶんになる。点前や作法だけでなく、茶道の背景にあるさまざまな日本の伝統文化を学んで欲しい、お稽古の時にいろいろな話を。お茶碗の話、季節に対する感性の話、京都の文化、直接的な造形を好まず、ほのめかすという京都の生菓子の特徴など話は尽きない。

毎週、いただいた和菓子をおいしくか持ってきた。京菓子の伝統や文化や銘について実物を前に解説もする。いろいろな和菓子を試食した学生は、恩義を感じているのか、茶道部の卒業茶会の後で歌を歌ってくれることになった。

何の歌だと思われませんか？

卒業の歌という時代によって様々だが、茶道部では伝統的に「仰げば尊し」を歌う。

なぜだか解りますか？歌は「仰げば尊し」で始まりますが、歌詞の続きを思い出してください。

「わがしのおん」そう、「和菓子の恩」なんです。

戦いの場で 百万の敵にうち勝つ 人よりも自己にうち勝つ その人がまことに真の 勝利者よ

「ダンマバダ」一〇三
京都女子大学「聖典」一〇六頁

おち

私の話は、オチのつく話が多いが、関西人の話にもオチがつく。

関西の人が話し終わると時に、関西人は何かを待つようすで、「で、オチは？」と聞いてくる。

お笑い文化で育った関西人にとって、話にはオチがあるのがあつうで、面白いオチがない時も、最後に「知らんけど」とつけてオチにする。

落語

オチといえは落語には必ずオチがある。私は上方の古典落語が大好きで、桂米朝の落語はCD全集を持ってよく聞く。話術のうまさはずが、同じ話を何度聞いてもおもしろい。間の取り方や、話し方など、講義の参考にもなっている。

その落語のルーツも言えるのが、お寺で聞くお説教なのである。新楽庵策伝は説教の名手として有名で、策伝が人気があつたからである。

その策伝と著作「醒睡笑」は落語の始まりとされ、いまでも誓願寺で落語会がよく行われている。

お説教

仏教のありがたい話も、難しければ伝わらない。

い。時代や人にあわせて、わかりやすく教えるように工夫をする必要がある。

最近では漫才師が、おもしろおかしく仏教の解説をしているのをテレビで見ると、言葉の説明など「知識」が誇張して語られるが、仏教の大切な「教」は語られない。煩惱の数え方を知っても、それによって生き方や考え方が変わることはない。

人生に活用がきく「智慧」とはならないのである。どう伝えるかより、何を伝えるのが大切なのだ。

教えとしての仏教をわかりやすくするのは難しいが、身近で的確な比喻を使えばうまく伝えることはできる。

親鸞は「現生正定聚」を説いたが「正定聚」とは、仏に成る身と定まったことを意味する。

仏に成ることだが、その修行中の菩薩が、ある段階までいけば、そこから後退することなく、必ず仏に成ることが約束される。

に約束されるのだから、往生して成仏することが約束されるのは、生きているあいだであるといえる。現生で正定聚が成立するのである。

この論理は画期的だった。臨終に仏のお迎えが来るか心配したり、死の間際まで死後の往生や成仏を心配して不安な人生を送らなくても、生きていく間に成仏が約束され、安心して人生を送ることができた。この世で「救い」が成立したのである。

合格通知

これをわかりやすく伝えるために学生に、子どもの頃から受験のために勉強を続けてきたのは何のためだったのかと問いかける。

大学に入るためなら、入学式に出席して初めてよるこびを感じるのかと聞くと、合格通知をもつた時だと答えが返ってくる。

まだ手続きもしていないのに、「大学に入れた」と受験勉強から解放されて安心を得られるのは、大学生になれるとの約束をもらった時なのだ。

親鸞は、それを「往生を得る」と表現する。往生を得るとは、往生が定まることであり、仏に成る身と定まるといふことである。

これを、「この世で往生する」と誤解する人がいるが、この世で浄土往生するならば、この世は浄土でなければならぬし、親鸞自身も、誤解のないように、即得往生とは往生が定まることだと著作の中で説明している。

さて、私たちの人生をしめくく「オチ」とは何だろうか。オチのない人生は、落ち着かない。人生のオチは終わりでなく浄土往生という続きがある。その「続き」が大切であり、その余韻はこの世に、遺された私たちの心に残る。

浄土に往生させてくれる。どんな私たちがあつても救いのめあてとなるが、あえて悪をおかしたり、どんな生き方をしてもいいということではない。

多くの命をいただいで生きる私たちであつても、それを当たり前だと思わずに、すべての命を救えたままの私たちを救

い、浄土に往生させてくれる。どんな私たちがあつても救いのめあてとなるが、あえて悪をおかしたり、どんな生き方をしてもいいということではない。

多くの命をいただいで生きる私たちであつても、それを当たり前だと思わずに、すべての命を救

等しく救おうとする阿弥陀仏の本願の前では、「いただきます」と、せめて多くの命に感謝をする人生を送ることが大切なのではないのだろうか。

浄土往生というオチのある人生。そこへと続く一歩一歩こそ、私たちがしっかりと歩むべき命の道なのである。

勸善懲惡もののコンテンツには、しばしば「正義の味方」が現れる。注目したいのは、正義「そのもの」ではなく、あくまで「味方」に留まることである。そこには、「正義の側に立ちたいが、完全なる正義そのものにはなれない」という、悲哀が感じられる。「正義」は仏教では「しよき」と読む。これは、仏の説いた教えに、私たちが仏に成れるよう導く意義があることを示している。こうした正義という性質は、仏の教えについてのみ言えることで、仏ではない私たちの行いや言葉、思いには、残念ながら存在しないものである。

親鸞は、仏教を通して、私たちが状況次第で何をやるか分からない、深い闇を持つ存在であることを見つめた。ものごとは是非正邪を知らない自分であると告白している。親鸞には、自身を正義「そのもの」と位置づける発想は見られない。けれども、自分が正義であると楽である。正義を振りかざして不正義を懲らしめることは快感ですらある。「人は自分が正しい」と思っている時に、最も攻撃的になる。最近耳にした言葉である。果たして、身に覚えがかなしい。私たちが他人を責める時は、自分こそ正しい、正義そのものだと思いがあつた時ではないだろうか。そこに生じるのは争いである。

もちろん「正義」と「正義」とは別文脈の話である。けれども、正義の「味方」という控えめな表現に正義を感じるの

令和4年6月 月例礼拝日程表

日	曜日	講時	対象学生	担当
7	火	1	法学1A・1B	西・赤井
8	水	1	養音1	野呂
		2	養音3	小池
9	木	1	現社3C・3D	釋氏・藤井
		4	現社3A・3B	川元・那須
10	金	1	食物1A・1B	打本・井上
		2	心理3	普賢
		1	現社1A・1B	西・打本
13	月	2	史学1A・1B	内手・西山
		4	児童1	黒田
17	金	3	児童3	塚本
21	火	1	心理1	藤井
		3	造形3A・3B	赤井・西
		4	英文3A・3B	森田・清基
24	金	1	現社1C・1D	那須・西山
		2	教育1	井上
		4	英文1A・1B	塚本・川元
27	月	1	造形1A・1B	井上・南條
		2	食物3A・3B	黒田・西
		3	国文1A・1B	中西・壬生
		4	史学3A・3B	壬生・中西
29	水	1	法学3A・3B	普賢・西
		3	国文3A・3B	小池・中西

令和4年7月 月例礼拝日程表

日	曜日	講時	対象学生	担当
5	火	1	法学1A・1B	西・赤井
12	火	1	教育3	黒田

京女への通学路 いまむかし

③1940年 東山三校の北門



一九二〇年に「女子大学」に代わる「最高学府」として京都女子高等専門学校(女専)が設立されたことで、「高女」「裁女」「女専」という三つの女学校が揃い、「東山三校」と呼ばれるようになりました。この写真は、高女創立三〇年・女専設立二〇年を記念して一九四〇年に建てられた第一〇校舎と東山三校の「北門」を収めたものです(一九四一年度裁女の卒業アルバム)。「北門」だといわれても「ああ、あそこだ」とは、すぐに思い至らないことでしょう。東山総合支援学校のグラウンドの塀に沿った細い路地を入ったところにあります。いまもよく似た門柱が立っています。第一〇校舎は女専の校舎として使用された

のち、戦後は新制の京都女子高校の校舎となり、一九六六年に高校・中学のプールを造るため解体撤去されました。プールの北側に鉄筋五階建ての錦華寮とキンカ食堂があつたことになり、多くの大学生もこの「北門」を行き来していました。いまでは馬町の商店街もすっかり様変わりしましたが、渋谷通り沿いには焼き芋屋や駄菓子屋、うどん屋やお好み焼きの店がありました。この「北門」は一〇〇年以上の間、朝は授業に遅れまいとして駆け込んできた学生たちを迎え入れ、放課後は小腹がすいたといつては寄り道していた学生たちの背中を見送るように静かに立ち続けています。

(史学科・坂口満宏)



現代社会学部教授 巨 明 志

ソーシャル・ディスタンスと ダイバーシティ

社会学と社会的距離

新型コロナの感染拡大が問題になり始めた頃、突然人びとの間で語られるようになった言葉のひとつに、ソーシャル・ディスタンス(社会的距離)という語があった。その意味するところは明瞭で、人と人との距離を保つことによって、密集することを避け、感染することを予防する点にあり、今ではかなり定着している。しかし、当初、社会学者としてはこの「ソーシャル・ディスタンス」という用語の使い方に大いに違和感があった。もちろん、人と人との間に距離を保つことによるコロナ感染抑制にはそれなりに合理性があることについてはまったく異議はない。そうではなくて、社会学では「ソーシャル・ディスタンス」という用語はコロナによって定着したのとは少なからず異なる意味で使われていたからである。

社会学者といっても、偏見や差別意識を研究対象とする人でなければ、知らないかもしれないのだが、集団に対する親密さや疎遠さを表現するものとして「社会的距離」という用語が使われていたのである。たとえば、アメリカの西海岸の人種間の親密度を量的に把握するためのスケール(尺度)として、ボガードスが開発した「社会的距離尺度」は比較的知られていて、調査研究でもよく使われてきた。

ボガードスの社会的距離尺度では、インフォーマントは様々な(人種)集団に対し、(1)婚姻によって親戚関係になってもよい、(2)親友として社交クラブに参加してもよい、(3)隣人として近所に住んでもよい、(4)同僚として職場にいてもよい、(5)市民として自分の国に来てもよい、(6)訪問者としてのみ来てもよい、(7)自分の国から出て行ってほしい、という七つの項目のどれに該当するかを答え、対象集団との距離を測定する。ここからコロナ禍の中で使われるようになったソーシャル・ディスタンスとはかなり異なる意味であることがわかると思う。

「距離」という概念の社会学への導入はドイツの社会学者、ジンメルの功績だったようだ。それは空間的には近いところにいるにもかかわらず、心理的には疎遠な関係になるという現代社会の都市化状況を、「距離」という概念で把握しようというねらいがあった。それゆえ、ボガードスほかのアメリカの社会学者たちが、人種集団の関係を測定する概念としてスケール化したことは、ジンメルのねらいの一部を先鋭化したものと言えるだろうが、元々もついていた多様な意味合いをそぎ落とすことになったことは否定できない。

ボガードスらの「社会的距離」とはまったく別の文脈で、「距離」が社会的意味を持つと考えられる分野がある。プロクセミクスと呼ばれる研究領域で、コミュニケーション論では「距離」は非言語記号の一種ととらえることになる。ここで言われる「距離」は、コロナ禍の中で語られるようになった「ソーシャル・ディスタンス」と同じく空間的距離を意味するが、それは人と人の関係の近接関係を表していると考えられる。プロクセミクスを創始したE・T・ホールは対人関係の距離として、ごく親しい人へのみ許される「密接距離」、相手の表情が読み取れる「個体距離」、会話が可能な範囲の「社会距離」、複数の相手が見渡せる「公衆距離」の四つに分類している。これは人が日常生活においてまわりの人や物を空間的にどのよう

に認識しているかということに関係するので、文化や社会状況によっても異なってくるだろう。ICTが浸透し、コロナ禍がリモートワークを一層促進したことを考えると、これまでの空間認識や人間関係はかなり変容したと言えるのではないかと。ソーシャル・ディスタンスを保つコロナ定員を前提とすると、大教室での多人数の対面講義は困難な状況が続いている。

「距離」という概念の社会学への導入はドイツの社会学者、ジンメルの功績だったようだ。それは空間的には近いところにいるにもかかわらず、心理的には疎遠な関係になるという現代社会の都市化状況を、「距離」という概念で把握しようというねらいがあった。それゆえ、ボガードスほかのアメリカの社会学者たちが、人種集団の関係を測定する概念としてスケール化したことは、ジンメルのねらいの一部を先鋭化したものと言えるだろうが、元々もついていた多様な意味合いをそぎ落とすことになったことは否定できない。

なぜ紫陽花の名前を使っているのかを尋ねたところ、次のように説明してくれた。紫陽花の花びらは小さいけれどもそれぞれ独立している、色も微妙に異なっている。そのような小さな花びらが集まって、ひと房の紫陽花となる。紫陽花の花のように、一人ひとり自立し違っているからこそ、みんなが集い、力を合わせ、心を通い合わせることができ

る。そんな場所にしたから、ということであった。現在のキーワードで言うところ、「ダイバーシティ(多様性)」ということだ。長い大学教員生活の中でも新型コロナウイルスの感染拡大が問題になってからの変化ほど大きな変化は体験したことはない。確かに、コロナ禍は大学の中に「距離」をもたらした。しかし、その「距離」は

お知らせ

宗教・文化研究所公開講座(ご案内)

シリーズ：東山から発信する京都の歴史と文化②
テーマ：京都の朝廷と鎌倉幕府

開催日 6月18日(第三土曜日)
第一部 13:00~14:30
「後醍醐天皇、討幕への道」
講師 高野山大学文学部専任講師 坂口 太郎 氏
第二部 15:00~16:30
「北条義時と鎌倉・京都」
講師 鎌倉歴史文化交流館学芸員 山本みなみ 氏

※開催形式および申込方法等については、大学ホームページをご確認ください。

＊本願寺書院・飛雲閣拝観(前期)＊

日時 6月22日(水) 15:15~17:00
場所 本願寺書院・飛雲閣・唐門
募集人数 30名(先着順)
参加費 無料

※申込方法等は京女ポータル、宗教部掲示板または宗教教育課(仮設校舎A2階)で確認ください。

芬陀利華アンケート
読んだ感想やコメントをお寄せください。
(すぐに答えられるアンケートです)

シリーズ 智慧の蔵 45

『ジャイナ教とは何か ― 菜食・托鉢・断食の生命観 ―』

上田真啓著 風響社 二〇一七年



ジャイナ教は、二五〇〇年前にインドで誕生した土着の宗教です。祖師のマーハーヴィラ(別名、ニガンタ・ナータブッタ)は反バラモン(出家修行者で、積尊と同時代に活躍した思想家)です。仏教とは異なり、ジャイナ教は誕生から現在に至るまで、一度も途絶えることなくインドで信仰され続けています。ジャイナ教徒の数はインドの他の宗教に比べて少ないものの、教育水準が高く、ビジネスや学問の世界で活躍している人が多くいます。

ジャイナ教といえは不殺生と無所有の教えが有名です。不殺生は、生き物を殺さないだけでなく、傷つけないことでも、無所有は必要最低限の物しか所有しないことで、出家者のなかには一糸まとわず修行する者もいます。そして、最も特徴的なものは食生活で、彼らは不殺生を守るために肉食を送り、解脱に向けて断食をおこなうこともあります。こうした私たちにはあまり馴染みのないジャイナ教の入門書としておすすめしたいのが、上田真啓氏の『ジャイナ教とは何か』です。著者は、彼らの生活や思想を分かりやすく紹介してくれています。なかでも興味深いのは、ジャイナ教の菜食主義についてです。彼らは、動物だけでなく、植物にも生命が宿っていると考えます。なので、野菜を食べることも殺生に当たることがあります。それでは、不殺生のために何も食べないのでしょうか。当然、生きていくには食べないわけにはいきません。そこで、彼らは殺生を極力控えるために、工夫を凝らした様々な食事の規則を設けます。例えば、ナスやトマトを食べるはいけない、日

法のことば

戦いの場で 百万の敵にうち勝つ 人よりも自己にうち勝つ その人がまことに真の 勝利者よ

〔ダンマバダ〕一〇三
〔京都女子大学聖典〕一〇六頁

仏教が、他者との争いをよしとせず、特に暴力の行使を戒める宗教であるということは、皆さんもご存知のとおりです。積尊はここで、「敵」にうち勝つことばかりに気をとられがちな私たちに、鋭い対比を用いて語りかけ、自身のすがたに目を向けるよう促します。

自己にうち勝つ、というとき、積尊は、むさぼりといかり、そしておろかさや分ちがたく結びついた私たちのいのちのすがたを見据えています。その克服を目指して生涯歩む道が仏道です。それは、むさぼりやいかり、またおろかさにとらわれた心になだ身をゆだねるのではなく、仏の教えに照らされて、その自身のあり方を乗り越えていこうとする生き方として現れてくるものです。

(藤井 隆道)

紫陽花とダイバーシティ

学生時代に卒業研究のフィールドワークで「紫陽花」の名を冠した生活共同体を訪れたことがあった。外部から見るとカルト的な宗教共同体のように見えるため、身構えながら訪れたのであるが、予想に反して非常にやさしい雰囲気の中で迎えてくれた。この共同体は障害者やマイノリティの人びとを受け入れていた。よそ者も歓迎される。それは多様な人びとを包み込むやさしさであった。

なぜ紫陽花の名前を使っているのかを尋ねたところ、次のように説明してくれた。紫陽花の花びらは小さいけれどもそれぞれ独立している、色も微妙に異なっている。そのような小さな花びらが集まって、ひと房の紫陽花となる。紫陽花の花のように、一人ひとり自立し違っているからこそ、みんなが集い、力を合わせ、心を通い合わせることができ

る。そんな場所にしたから、ということであった。現在のキーワードで言うところ、「ダイバーシティ(多様性)」ということだ。長い大学教員生活の中でも新型コロナウイルスの感染拡大が問題になってからの変化ほど大きな変化は体験したことはない。確かに、コロナ禍は大学の中に「距離」をもたらした。しかし、その「距離」は

遠心力と求心力の微妙なバランスをもたらしたいように思う。小さな距離が挿入されることにより、遠心力によって飛び散ってしまわず、また求心力によって密着し画一化してしまわないようなバランスが求められるようになったのではないかと。とりわけ、三回生になった当初にコロナ禍の中に投げ込まれ、今年卒業していった学年の卒業論文の成果を見てしみじみそのことを感じた。それぞれのテーマを真剣に追及することで、独自にコロナ禍がもたらした問題に出会っている。

一つひとつの研究テーマは小さな花びらからでも新しいコロナの感染拡大が問題になってからの変化ほど大きな変化は体験したことではない。確かに、コロナ禍は大学の中に「距離」をもたらした。しかし、その「距離」は

没後にはなるべく食事をするなど、どうしてこれらに殺生を避けることにつながるのでしょうか。ジャイナ教の「生命観」という観点から著者はこれらの行動原理を解説してくれています。さて、こうしたジャイナ教の菜食や不殺生の教えに触れると、なかには「ジャイナ教徒って大変だな」とネガティブな感想を抱く方もいるでしょう。しかし、著者は「あとがき」で、彼らが厳格な規則に縛られて暮らしているわけではないと、決まらずに、野菜を食べることも殺生に当たることがあります。それでは、不殺生のために何も食べないのでしょうか。当然、生きていくには食べないわけにはいきません。そこで、彼らは殺生を極力控えるために、工夫を凝らした様々な食事の規則を設けます。例えば、ナスやトマトを食べるはいけない、日

(壬生 泰紀)